

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

「考えよう 世界のこと ～ザンビアを通して考える国際協力のありかた～」

【実践者】

氏 名	伊澤 智佳子	学 校 名	福島県郡山市立郡山第七中学校
担当教科等	道徳 / 英語	対象学年	1年6組(32名) 本時 1年1.2.3.4.5組(166名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年7月 ～ 11月		

【実践概要】

1. 単元(活動)名	道徳 「国際協力ってどういうこと？」 英語 「Unit8 Think Globally, Act Locally」	
2. 単元目標	単元目標： 道徳 ザンビアへ行った教師の体験を聞いたり、開発途上国にまつわる資料を読んだりすることを通して、よりよい国際協力とはどのようなものかを考え、相手のニーズに応える重要性を理解することができる。 英語 世界や地域の問題を共有して解決するために、したいことやする必要のあることについて、自分の思いを伝えることができる。 関連する学習指導要領上の目標： 道徳 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。 英語 外国の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
3. 単元の評価規準	①知識及び技能	よりよい国際協力の意義を理解できる。
	②思考力、判断力、表現力等	よりよい国際協力のあり方について、級友との意見交換を通して多面的・多角的に考えることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	国際協力の必要性や大切さを理解し、よりよい国際協力とは何かを級友と話し合うことができる。
4. 単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 まだまだ経験が浅く、自分や自分の周りのことにしか目がいかない中学生にとって、世界を知ること、ましてや開発途上国については未知の世界であり、遠い国の話に感じてしまうところがある。普段一緒に生活している教師がアフリカ・ザンビアに行くことで、開発途上国を自分事として身近に感じ、正しい情報と知識を得て、同じ地球市民として何ができるのかを考えるきっかけにしていきたい。 【単元の意義】 様々な資料を通して、国際的視野に立って他国を理解することの大切さに気づき、日本人としての自覚をもって国際理解・国際貢献に努める道徳的実践意欲を培う。「国際協力とは？」に対する答えは一つではなく、生徒一人ひとりが出したものが正解であり、個々の考えを全体で共有することでさら	

に深い学びへとつなげ、多角的・多面的な視野でねらいに迫ることができるものとする。また、先進国が一方的に何かをする自己満足的なものではなく、相手国の生活様式や状況、背景などを知り、そのニーズに合った支援や協力が大切だということに気づかせていきたい。

【生徒観】

男女合わせて32名が在籍しており、欠席者の少ない学級である。諸活動に意欲的に取り組み、特にペア活動やグループ活動においてスムーズにかつ活発に活動ができ、級友の意見をきちんと聞くことができる。生徒は社会科や英語科の学習を通して、他国の文化や風土、社会についての知識を学んでいる。事前に行った国際協力に関するアンケートにおいて、ほぼ全員が、「国と国とが協力することは大切なことだ」と答えており、地球的課題の解決や輸出や輸入の貿易などの理由を挙げ、社会科の学習の知識を生かし、教科間でつながる学びができている。

【教材観】

「国際協力」について、自分の開発途上国での体験をもとに考えを述べた教科書の2つの生徒作文に触れることで、相手の立場を理解し、国や地域を超えた深い人類愛をもって国際理解・国際貢献を果たしていくことについて、自分事として考えることのできる資料である。また、教師が実際にザンビアで感じた日本との共通点や異なる点を取り入れた「ちがいのちがいかード」を使い、グループで話し合うことで、異なる価値観について知ることができる。同じく教師の体験を自作資料にすることで、相手のニーズに応える重要性に気づかせることができる。

【指導観】

「国際協力」と聞くと、すぐに「募金」を思い浮かべる生徒たちが多いのは、今回取り上げる開発途上国についての情報や知識の少なさや、遠い国のことと考えていることが挙げられるのではないかと思う。また知識はあるものの、いざ何ができるのかを考えたときに具体的に思い浮かばない生徒も多い。まずは教師のザンビア訪問前に、生徒がザンビアという国のイメージを膨らませて、身近な教師がアフリカに行くことで、開発途上国を身近に感じさせたい。ザンビア訪問後、教師の体験を聞くことでザンビアと日本の共通する部分と異なる部分に注目させ、その上で同じ地球市民として、よりよい国際協力のあり方について考えさせていきたい。中学生の今、途上国のためにできることは限られるかもしれないが、何もできなくても、現状を知ることがまず第一歩だということを伝えたい。

5. 単元計画 (全 8時間)			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	道徳 「考えよう世界のこと① ～アフリカについて～」	アフリカがどんなところかを想像し、教師が訪問する「ザンビア」についてのイメージをもつ。また、3時間目の学習資料の概要に触れ、国際協力について考える。	・アフリカ地理クイズ ワークシート
2	道徳 「考えよう世界のこと② ～ザンビアってどんな国?～」	教師の「ザンビア旅行記」の話を聞くとともに、動画や写真を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子 ・子どもたちの夢や宝物 ・食べ物 ・伝統文化 ・町の様子 ・訪問施設(病院・ゴミ処理場・村・国境など) </div>	・ザンビアの写真・動画 ・気持ちから振り返るシート
3	道徳 「考えよう世界のこと③ 『国際協力ってどういうこと?』」	中学生の国際協力に関する2つの作文を通して、友達と意見を交換しながら、「よりよい国際協力」には、どんなことが大切なのか考える。	・国際協力に関する事前アンケート (ロイロノート) ・「中学生の道徳1」 (あかつき)
4 本時	道徳 「考えよう世界のこと④ ～世界の“ちがい”～」	① ザンビアと日本の生活環境・文化の違いを示したカードを使って、グループで話し合い、「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分類する。 ② 話し合いの中で迷ったカードについて、全体で共有する。 ③ 気持ち振り返りカードを通して、自分の気持ちや学びに気づく。	・ちがいのちがいカード(共同作成) ・気持ちから振り返るシート
5 本時	道徳 「考えよう世界のこと⑤ 『ちひろの国際協力』」	① 資料を読んで、主人公の行動を通して、「よりよい国際協力」の在り方について考える。 ② JICA 協力隊員の国際協力に対する考えを読み、「よりよい国際協力」について自分なりの考えをもつ。 ③ 気持ち振り返りカードを通して、自分の気持ちや学びに気づく。	・自作資料 ・JICA 協力隊員の考えシート ・気持ちから振り返るシート
6	英語 Read and Think	英文ポスターを読んで要点をとらえ、開発途上国の井戸にまつわる問題について考える。	・New Horizon1 (東京書籍)

7	英語 Unit Activity 「協力を呼びかけるポスターを作ろう①」	世界の問題にはどんな問題があるかをグループで調べ、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、その現状を伝え協力を呼びかけるポスターを書く。	・ New Horizon1 (東京書籍)
8	英語 Unit Activity 「協力を呼びかけるポスターを作ろう②」	グループで作成したポスターセッションを行い、クラスで世界の問題を共有する。	・ New Horizon1 (東京書籍)

(1). 本時の展開 (1/2 時間目)			
本時のねらい: 「ちがいのちがい」カードを使ったグループ活動を通して、価値観の違いに気づくことができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (3)	1. 本時のねらいを知る。 (1) 前時までの内容を確認する。 【一斉】	・ 本時の活動がスムーズにいくように、写真を見せながら、思い出させる。	・ ザンビアの写真
(7)	(2) 日本とザンビアの「同じところ」と「ちがうところ」を考える。 【ペア→一斉】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本とザンビアの「ちがい」について、深く考えてみよう。</div>	・ ちがいだけでなく、同じところにも注目させることで、同じ地球市民という意識をもたせる。	
展開 (15)	2. 「ちがいのちがい」について話し合う (1) 13 枚のカードを分類する。 【グループ】 ・ あっていいちがい ・ あってはいけないちがい ・ どちらともいえない	・ 4人構成のグループを作る。 ・ 机間巡視をして、適宜質問をしながら考えを深める。	・ ちがいのちがいカード (13 枚) ・ カード台紙
(15)	(2) グループでの結果を発表する。 【全体】 ・ グループの中で迷ったカードはあったか (どれなのか)を確認し、他のグループの発表を聞く。	・ グループの結果をロイロノートの提出箱に送ることで、全体共有をしやすいとする。	・ タブレット
まとめ (10)	3. 本時のまとめをする。 (1) 活動を終えての今の気持ちを自分で整理する。 【個人→グループ→全体】	・ 落ち着いて自分の気持ちを整理できるように BGM を流す。	・ 気持ちからふり返るワークシート

6(2). 本時の展開 (2/2 時間目)			
本時のねらい： ザンビアの現状を知り、価値観が違うことをふまえながらよりよい国際協力とはどのようなものかを考え、相手のニーズに応える重要性を理解することができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (3)	1. 本時のねらいを知る。 (1) 前時の活動をふり返る。 【全体】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">よりよい国際協力に大切なことは、どんなことなのだろう。</div>	・ 前時からのグループのままにしておく。 ・ 「あってもいいちがいは価値観のちがいであることを確認する。	・ 前時の気持ちからふり返るシート
展開 (10)	2. 「ちひろの国際協力」を読んで、話し合う。 (1) 資料1(前半)を読む。(ちひろの行動) 【全体】 ○ ちひろのしたことについて、あなたはど う思いますか。 【個人→グループ→全体】 ・ 行動力がすごい。 ・ 中学校からの夢をかなえていて、努力した んだと思う。	・ 称賛する意見以外もあれば取り上げる。	・ 自作資料 「ちひろの国際協力」 ・ ワークシート
(15)	(2) 資料2(後半)を読む。(3年後の村) 【全体】 ○ 3年後、現地の3人の話を聞いて、ちひ ろはどんなことを考えたと思いますか。 【個人→グループ→全体】 ・ 自分の思いや自分がしたいことしか考えて いなかったのかも。 ・ 私がしたことは、相手は望んでいなかった。	・ 3年後にちひろがが っかりしたのはなぜか に気づかせる。	
(10)	● よりよい国際協力に大切なことは、どん なことなのだろう。 ・ 国際社会についてたくさん学ぶこと。 ・ 相手のことを自分のように考え、本当に望 んでいることを援助すること。	・ 資料から離れて、自分 事として考えられるよ うにする。	
まとめ (5)	3. 本時のまとめをする。 (1) 資料3を読む。 【全体】	・ 実際にザンビアで活 動している隊員の声 を聞くことで、世界を近 くに感じられるように する。	・ JICA 協力隊員 の考えシート
(7)	(2) 活動を終えての今の気持ちを自分で整理 する。 【個人→グループ→全体】		・ 気持ちからふり 返るワークシート

7. 本時の振り返り

本時は8時間計画（道徳5時間、英語科時間）であり、道徳5時間のうちのまとめの4.5時間目であったので、本時のねらいにつながるように1～3時間目の授業を行ってきた。

「ちがいのちがい」カードでの活動では、他のグループの分類結果を自由に見に行かせる前に、生徒たちに「見る視点」を与えたことで、よりフォーカスして他のグループと自分のグループの比較ができ、その後の意見交換も活発になったと思う。生徒たちから「あっていいちがい」⇒『文化・宗教・趣味』、「あってはいけないちがい」⇒『差別・格差』という共通点を出させたことで、主体的な学びになっていたのではないかと思う。

また本時2時間目は、前時で行った「価値観の違い」からつながる自作資料で、私自身がザンビアで感じた日本からの支援の思いとザンビア人の生活の背景などの違いを題材にした。生徒たちにも、そのギャップを感じてほしくて、資料を2部構成に工夫した。「良かれと思ったことが実際はあまり役に立っていない」という新たな視点が生徒たちがもてたのではないかと思う。そこから、「相手のニーズを知ることがよりよい国際協力につながる」ことや、「井戸を直す技術を教えることが必要である」など、最終的に途上国の人々が自分たちで自立できる地域作りや国作りを目指せる環境を…という意見が生徒たちから出てきた。

8. 学習方法及び外部との連携

「ちがいのちがい」カードでの活動では、グループでカードを分類する際、タブレット等を使わず、机の上の大きな分類用紙を囲み、グループ全員で頭を突き合わせて話し合いができたことはよかったと思う。その後の他のグループの分類結果を見る際に、時間（2分間）を決めて自由に見に行かせたことで、お互いに質問している姿が見られた。

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

授業実践を2時間構成での公開とし、1時間だけでも校内の多くの先生に参観してもらえるように工夫した。同じ学年や同じ英語科の同僚が参観し、「国際協力について改めて自身も確認し、子どもたちの純粋な意見や考え方に触れる中で自分自身にとっても大きな学びになった。自分もいつか『国際理解』をテーマにした授業に挑戦してみたい。」などという前向きな感想をくれる同僚もいた。また、校内に「国際理解コーナーや」「ザンビアコーナー」を作り、掲示を工夫した。ザンビア最終日に作成した自分の学びをポスターにまとめた「学びの地図」やザンビアで撮った町や学校の様子などをポスターのようにまとめ、全校生徒が目につくところに掲示している。



【自己評価】

<p>10. 苦勞した点</p>	<p>授業を実践する上で、私自身が実際にザンビアで感じたことや考えたことが多く、どれもこれも生徒たちに伝えたいという思いがあふれてしまい、授業のテーマを一つにしぼることが難しかった。全5時間の道徳の授業の構成や順番についても、どうすることが生徒たちにとって効果的に深く考えさせるものになるのか考えた。1時間目から5時間目まで、すべてつながるような授業展開に悩んだ。</p>
<p>11. 改善点</p>	<p>現地の JICA 隊員 2 名に依頼した「国際協力」に関する考えの文（原文は英語）を、本時 2 時間目のまとめの資料として生徒たちに提示したが、可能であればビデオレターのような形で、ザンビアのいずれかの場所を背景に、隊員の方が話している動画を見ることができたなら、さらに生徒たちは自分事として受けとめ、臨場感あふれる授業となるのではないかと考えた。</p>
<p>12. 成果が出た点</p>	<p>生徒たちにとっては、初めて知る情報が多く、頭をたくさん使った授業になったかと思うが、研修で教えていただいた「気持ちからふり返るワークシート」を授業の感想等を書くまとめで使うことで、自分の今の気持ちを整理し、自分の言葉で感想や考えを書くことができる生徒が増えた。</p> <p>また道徳の全授業後、英語科で世界の問題に関する英文ポスターを作成する授業を行ったが、途上国の子どもたちに目を向けてポスターを作成する生徒が出てきたことも、自分事としてとらえられたことにつながるのではないかと思う。</p> <p>廊下ですれ違う時の校内のあいさつに関して、「こんにちは」にあたるザンビアのニャンジャ語「ムリグアンジ」と声をかけてくれる生徒たちが、授業を始めて数か月経っても多くいることもうれしいことである。</p>
<p>13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>1 時間目(アフリカのイメージ)の授業後の感想</p> <p>(ザンビアという国の全く違う環境の人のことについて色々知りたくなった。こんど募金箱を見つけよう寄付したいと思った。</p> <p>ザンビアの子たちにできることって何だろうか？ってよく考えらました。お金をシステムで解決することではなさそうだなと思いました。</p> <p>お金や食べ物をおけるというのは私たちの勝手かまた「けれど相手からしたらどうなのかな」とはじめて考えた。</p> <p>今、こうして考えたことがただの偏見なのか、また夏休み明けには知りたい。</p> <p>日本と外国は、ぜんぜん違うことかと思、これだけ似ているところもあるけれど、やっぱり違うと思ひました。</p>

2時間目(ザンビア旅行記)の授業後の感想

日本とザンビアの文化の違いを知るときに、すごくおもしろく
した。

ザンビアの人たちは大変な生活をしているのに、日本と同じ
ように笑顔に過ごしているところを見て、勇気を得た。

ザンビアの人たちを見てとても驚きました。もし私たちに何か出来ることが
あるのなら、何かお返ししたいという気持ちになりました。

ザンビアの人たちの笑顔とてもかわいかったです。

日本は、いろいろなベリで幸せだけれど、ザンビアも笑顔で
楽しく生活している人を見て、日本とは、また違った幸せがあるの
だなと思いは、そして同時に、ゴミを捨て、それをうる人も
いて、むぎむぎした気持ちの中には、ありました。

ザンビアの国は、日本の古い物を使っているのに、みんな笑って、笑顔で
楽しそうに感重れました。ザンビアの子たちを見ていた、頑張りやと思え
ました。

必要な物が、無くても何とかしようとしていたところを
驚きました。そうしたら、格差が無くなるか考えたいとい
けないと思っ

3時間目(教科書「国際協力ってどういうこと?」)の授業後の感想

・世界中の人々に平等に接することが大切だと思
った。

・小さな行動が世界を変えることがあるのかなと
感じる事ができた。

貧しい国に手を差し伸べるためには、まず本当にその人達が望むものなのか
を考えた。調べたりすることが本当に平和につながると思った。今回の2
つの作文は国際協力の大切さを見直す良い機会になった。

必しもお金、食べ物を恵むことが国際協力ではないと思う。
互いに良いところを分け合うのが大切だと思っ

「お金や食べ物、手助けする援助も大事だ」と思うけど、
 まずは気持ちが大変なんじゃないかなと思った。
 貧しい人々を助けないより助けるほうがいいと思うけど、「自己満足」
 の援助になってしまうから、どちらが正しいのかなと思った。

4 時間目(ちがいのちがい)

5 時間目(自作資料「ちひろの国際協力」)の授業後の感想

My final answer

支援だけでなく互いを知り、安心できるようにする。



My final answer

相手の文化、生活、望んでいることを理解して、少しだけ手助けして、
 お互い自立していきなうにすること。



私は、おたがいの考え方や文化の違いを学ぶのが大切だと思いましたが、
 ザンビアで仕事をしている二人の話を知り、国際協力の
 大切さが分かった。



助けるだけでなく、助け合うのと、理解し合うのが大切だと思いました。
 ・その人たちのために、するだけでなく、自分と一緒に何かを
 することか大事だと思いました。



国際協力や支援は、お金だけで成立するものではなく他国の
 人との相互理解が大切だということを知り、感動した。
 心と心のつながりは大切だと感じた。



この単元でのテーマであり、生徒たちとずっと一緒に考えてきた「『よりよい国際協力』には、どのようなことが大切だと思うか」という問い。

1 時間目のアフリカについての生徒たちの一方的なイメージ、アンコンシャスバイアスから始まり、教師の帰国後に聞いたザンビアの生活、人々、文化の話、そして、3 時間目には教科書を使い、「開発途上国の子どもたちにお金や食べ物を恵んであげることはよいことなのか」という深い問いに、生徒たちは悩みながらも真剣に向き合っていた。本時である4. 5 時間目には、さらにテーマの核心にせまる資料を使い、級友との意見交流を通して、たくさんの意見を自分の中に取り入れ、最終的に出した自分なりの『よりよい国際協力』の答えが、上に紹介したものである。

アフリカについて何も知らなかった当初に比べると、生徒たちの言葉がより具体

的なものになっていて、自分事として考えられるようになってきたことがわかる。授業を重ねることで、生徒たちが問いに対して多面的・多角的に考えられるようになったことだけでも、授業実践を行った意義があったのではないかと思う。彼らがこれから成長していく中で、「アフリカ」や「開発途上国」などという言葉や映像に出合う度に、中学時代のこの授業を思い出し、同じ地球市民として少しでもできることをまた考えてくれたら、うれしい限りである。

8時間目(英語科 協力ポスター)の作品



日本語で考える道徳に比べると、自分の意見や思いを英語で表現することは、中学1年生の生徒たちには少しハードルが高い。その中で、世界の諸問題とその解決のために自分たちができることを考えた英語の授業では、フードロス問題や、水質汚染、エネルギー問題、紛争などがあげられた中で、たとえ解決策として募金を呼びかける単純なポスターだとしても、語彙力の少ない生徒たちが開発途上国の子どもたちに目を向けられたことは、大きな意義があることだと思う。

14. 授業者による自由記述

今回この教師海外研修に参加させていただき、教員生活約30年になる私にとっても初めて出合う新しい学びが多く、そして何より、年齢も、働いているところも、校種も違うチームメイトと出会えたことも含めて、この研修のすべてがこれからの教員生活のかけがえのない財産になったと思う。ザンビアでの10日間の学びはもちろん、事前研修や事後研修、そして授業実践報告会などで、お互いの授業プランを検討したり、開発教育について学び、ワークショップを通して意見交換をしたりと、本当に楽しく充実した時間で、毎回さらに頑張る力をもらえた。

海外研修に行くことが決まったときは、大きな不安を抱えていたことを今でも思い出すが、研修の一切が終了した今、「行ってよかった」と胸を張って言える自分がある。今回の経験を、今の、そしてこれから出会う子どもたちに還元していくことが私のすべきことだと改めて思っている。JICAスタッフをはじめ、この研修に関わっていただいたすべての方々へ、感謝の気持ちでいっぱいである。ありがとうございました。

【国際協力ってどういうこと？】 日本とザンビアの「ちがい」について深く考えてみよう(1/2)

前時までの確認

本時の課題提示 (あっていいちがい だめなちがい)



カードをもとにグループで「あっていいちがい だめなちがい」をYチャートでわけていく



他のグループの分けたYチャートを見に行く



グループの分け方をクラス全体で共有 (グループの発表)



本時のまとめ ワークシートに自分の考えを記入していく



【国際協力ってどういうこと?】よりよい国際協力に大切なことは、どんなことなのだろう(2/2)

本時のねらいの提示 (学習課題の提示) 自作資料配付・読み聞かせる



資料1を読み自分の考え(感想)をワークシートに記入



グループで意見交流(他の人の考えを聞く)



資料2 (3年後、現地の3人の話を聞いて主人公ちひろはどんなことを考えたか)



グループ内で発表(個々の考えを聞き合う)



クラス全体で交流（各グループの考えを発表・聞き合う）



資料3 実際に現地で活動している JICA 隊員の意見を資料から読み取る



支援地域の現状の説明



ふりかえり 自分の考え・気持ちをワークシートに記入する





日本のとしお君は日曜日の午前中は部活動でバスケットをする。

ザンビアのダンテ君は日曜日に家族で教会に行く。



日本人は洗濯機で洗濯をする

ザンビア人は手で洗濯をする



日本の学校は1人につき机が1つ与えられている。

ザンビアの学校では5人で2つの机を使う。



日本は、蛇口をひねると飲み水が出る。

ザンビアは、井戸から水をくむ。



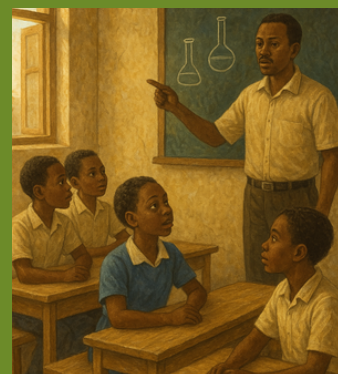
ザンビアではシマを手で食べる。

日本ではお米をはして食べる。



日本ではトイレは水で流す

ザンビアの地方ではトイレは穴をほって埋めている



ザンビア国内で支援が入っている学校は理科の実験をする

支援が入っていない学校は理科の実験は黒板で説明する



ザンビアのリリアンは11歳で結婚する。

日本のあかねは11歳のときに、学校で友達と遊んでいる。



日本はゴミを分別し、そのゴミは焼却炉に集められる。

ザンビアはゴミは全部まとめて一か所に埋め立てる。



ザンビアでは13歳のケビン君は医者を目指して学校で勉強している

一方、13歳のエマニエル君は学校に行かずにさとうきびを売っている



日本では呼べば救急車が来る

ザンビアでは救急車が走れる状態であれば来る



日本のパンパースのパッケージには日本人の赤ちゃんがうつっている。
ザンビアのパッケージにはさまざまな人種がうつっている。



日本のこうへい君は電気をつけて夜遅くまでゲームをしている。

ザンビアのマパロ君は、暗くなる前に夕飯を食べて寝る。

資料① 「ちひろの国際協力」

大学生のちひろは、中学生の時の英語の教科書で、同世代の子どもたちが片道 2 時間かけて井戸に水をくみに行くこと、そのために学校に行くことができないこと、読み書きや計算もできないまま大人になっていくということを知り、ショックを受けた。それ以来、自分もそういう子どもたちのために何かできないかと、「国際協力」という言葉を聞いたたびに、興味が高まっていった。

大学生になり、国際協力ボランティアのサークルに入り、日本にいる外国人とのふれあいや、初めて日本に来た人が日本の生活になじめるようにサポートするなど、積極的に活動していた。そんな時、ある支援団体とのつながりで、南アフリカにある小さな村で井戸を作るというプロジェクトがあることを知った。実際に自分が直接現地の人たちの役に立つことができると思うと、中学時代からの夢が叶うような気がしてとてもうれしかった。近くに井戸があれば、子どもたちが何時間もかけて水くみをする必要もなく、学校にも通えてあたりまえの教育を受けることができる。たった3週間ではあったものの、現地調査を行ってから井戸を作るというプロジェクトにとってもわくわくしながら、参加を申し込んだ。

そのトンガ族の村は 400 人が暮らしているという。電気も水道もない自給自足のその村に到着したその日、ちひろは村人たちから大歓迎を受けた。雨のほとんど降らない強い乾季のあるこの土地では、なかなか満足に農作物を育てることもできず、食べていくために、炭を町まで売りに行ったり、伝統のカラフルな布地（チテング）を使ってポーチやバッグなどを作りそれらを売ったり…。そういうことで、お金を得て生活している人たちも多々いた。貧しい村と聞いていたが、大切な食料であるトウモロコシをゆでたもの、そのゆで汁など現地の人たちにとってのごちそうを、惜しみなくちひろたちに振る舞い、歓迎してくれた。太鼓の音に、歌や踊り、人なつこい子どもたちと周りの大人たちの笑顔。

「やっぱり来てよかった！」

ちひろは、テレビでしか見たことのないアフリカの大地ときれいな夕日に感動し、この村のために精一杯がんばろう。」と気持ちを新たにした。

プロジェクトのメンバーと一緒に、早速翌日から村の様子を見てみた。子どもたちが朝から水くみをしたり、畑仕事の手伝いをしたり、よく働いていた。学校にはやはり行っていないようだ。井戸を作る場所も、村のあちこちを見て、水をくみに来やすいという点から、村の中心に設置することも決めた。

3週間が過ぎ、ちひろもすっかり現地の生活に慣れてきたころ、ついに村に唯一の立派な井戸が完成した。井戸の完成を祝うセレモニーも開かれ、ちひろは、涙がこぼれた。これからの村の人たちの生活を考えると、ものすごくうれしかった。この村の未来が楽しみだった。ちひろたち一行は、村長を始め、村人に感謝され、満足感いっぱいでの帰国した。



資料② 「ちひろの国際協力」

それから3年……。ちひろは大学を卒業して、国際協力に関する仕事に就き、忙しくも充実した毎日を送っていた。そんなある日、井戸作りに関わったあの村へ行く機会がめぐってきた。ちひろはわくわくした。あの時の子どもたちは、どうしているかな。大歓迎してくれた村人たちは元気かな。井戸の使い勝手も聞いてみよう。もっとこうしたほうが使いやすい、なんて意見が出たら、またいろいろ考えて役に立ちたい！！出発までそんなことを考えてうきうきした。

そして、再びあの村へ……。

村の様子を見たちひろはがく然とした。ちひろの目にとびこんできたのは、前と同じ、子どもたちがバケツを頭にのせて水を運んでいる姿だった。

「え…？ 前と変わってくない？」

村人たちに話を聞くと、ちひろたちが関わったあの井戸は、だいぶ前に壊れてしまったようだ。それなのに、だれも直そうとしていないという。それどころか、村人たちは1か月20クワチャ（日本円で約120円）を支払って、村長が個人で作った井戸から水を分けてもらっているという。

ちひろは、中学時代からずっと持ち続けていた国際協力への思いが、一瞬にして崩れたように感じた。

「私がしてきたことって、なんだったのかな……。」

この後、ちひろはこんな話を聞いた。



現地NGO代表 カウンダさん

村人たちは、遠い日本からの支援をありがたく思っています。自分たちのことを考えてくれていることも知っています。でも、日本人が作ってくれた井戸が壊れてしまったとき、彼らはどうしたらいいのかわかりませんでした。今はなんとか村長の井戸を使わせてもらっているけど、衛生的にはいいとは言えない。「自分たちの力で自分の村のことを何とかしようとする」という考えにしていきたいと思っています。



イザベラさん(12歳)

日本人が作ってくれた井戸が壊れても、前の生活に戻っただけだよ。家族のために働くことは当たり前だと思っているし、家族みんなで協力して、おいしいとうもろこしとゆで汁のご飯をみんなで食べられることは幸せだと思う。でも、学校に行って、文字の読み方や書き方を教えてもらえたらいいのにな、って思うこともあるよ。



母親リリアンさん(31歳)

この子を学校に行かせてあげたいのはやまやまだけど……。でも、水くみをしたり、畑を手伝ったりしてもらわないと困るんだよ。私たちがなんとか生活していくためには、子どもにも働いてもらわないとね。今を生きることで精いっぱい。大人も子供も関係ないのよ。



現地 JICA スタッフ 山本さん

村長や村人に井戸を直して使うように説得しているけど、村長の家の井戸をお金を出して使わせてもらうからって。修理などに必要以上にお金は出せないって、なかなか直す方向にはもっていけないのが現状です。どうすることがこの村にとっていいことなのか……。このままでいいのか……。

資料③ ザンビア JICA 海外青年協力隊員からのメッセージ

ひらたみきさん(獣医 / ザンビア大学病院)

「国際協力」と聞くと、先進国が途上国を支援することだと考えるかもしれませんが。でも実際は、途上国にも先進国にも両方にとって、いいことだと思います。

優しく、紳士的で、それでいて家族のように私を受け入れてくれるザンビアの人たちとの生活を通して、本当の豊かさとは、お金だけではないことがわかりました。

私にとって「国際協力」とは、

- 1) 他国の人たちとともに暮らすこと
 - 2) 文化や考えをシェアすること
 - 3) 考え方の違いを学ぶこと
- です。

このような小さなことから、異文化理解が始まるのです。



やまざきゆうこさん

(PC インストラクター / セント・ビンセント・コミュニティスクール)

私は「国際協力」とは、お互い同士を学んだり、それぞれのちがいを尊敬することだと信じています。それは、「助ける、援助する」ことだけでなく、知識をシェアしたり、一緒に成長すること。一緒に活動すれば、両方の国がより強くなると思います。

どうぞ、異なる意見や価値観を受け入れる姿勢をもってください。世界はあなたたちが思うよりずっと広くて、たくさんの生活様式があります。あなたたちが新しい文化と出合ったとき、最初は相手を聞いて理解しようとしてくださいね。

あなたたちの好奇心ややさしさが、よりよい未来を創っていくはずですよ。





「考えよう 世界のこと⑤『ちひろの国際協力』」

(1-)()番 名前()

<今までの自分をふり返ろう>

よりよい国際協力に大切なことは、どんなことなのだろう。



<資料を読んで考えよう>

☆ちひろのしたことについて、あなたはどのように思いますか。あなたの考えを書いてみよう。

Large empty rounded rectangular box for writing an answer.

☆ _____、ちひろはどんなことを考えたと思いますか。

Large empty rounded rectangular box for writing an answer.

<これからの自分を考えよう>

★『 _____』にはどのようなことが大切だと、あなたは思いますか。

Large empty rounded rectangular box for writing an answer.



My final answer





気持ちからふりかえる 「考えよう 世界のこと」

R7.12/ ()

1- 番 氏名

④『ちがいのちがい』 Today's Goal

日本とザンビアの“ちがい”について、グループで深く考えてみよう。

1. 授業をふりかえて、あなたの中にどんな気持ちが残っていますか、最大3つまで選んでください。(あてはまるものがない場合、その他に記入して丸をつけて下さい)

感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	もやもやした	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	その他 ()

2. そのような気持ちになった理由について、また、感じたこと、考えたことについて書いてください。

.....

.....

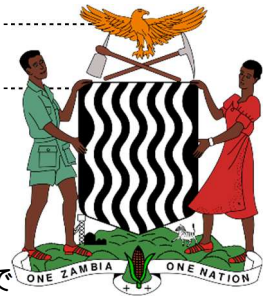
.....

R7. / ()

⑤『ちひろの国際協力』Today's Goal

“よりよい国際協力”に大切なことはどんなことなのか、グループで考えよう。

1. 授業をふりかえて、あなたの中にどんな気持ちが残っていますか、最大3つまで選んでください。(あてはまるものがない場合、その他に記入して丸をつけて下さい)



感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	もやもやした	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	その他 ()

2. そのような気持ちになった理由について、また、感じたこと、考えたことについて書いてください。

.....

.....

.....